



主な内容

特集——「ノバリス認定医療機関」に認定された当院の放射線治療部門
— 国際基準で高精度な放射線治療を提供 —

トピックス—— 岩手医工・産学連携フォーラムが開催されました

募金状況報告

フリーページ—— すこやかスポット歯学講座No.29
「歯科用コーンビームCTを知っていますか？」

表紙写真：事務職研修会の一環で神社のゴミを拾う職員（関連記事P.8）

特集

「ノバリス認定医療機関」に認定された 当院の放射線治療部門 — 国際基準で高精度な放射線治療を提供 —

当院は高精度放射線治療における国際的な品質保証プログラムである「ノバリス認定」を取得し、2025年3月に認定証と盾の授与を受けました。これは、日本国内で4番目、東日本の施設では初の取得となります。

ノバリス認定取得に向けた当院の取り組みや取得までの道のり、また、放射線治療部門のスタッフにお話を伺いましたのでご紹介します。

ノバリス認定とは？ — 高精度放射線治療の品質と安全性を保証する国際基準

ノバリス認定とは、高精度放射線治療において高水準な治療が実施されているかを外部監査し、その品質と安全性を保証することを目的とした認定プログラムです。日本国内には放射線治療に関する外部監査機関がなく、世界的にも数少ない中で、ブレインラボ社によって提案・設立されました。ただし、認定を審査するエキスパートグループはブレインラボ社から独立して運営され、世界的な専門家によって構成されています。

当院は2023年12月に条件付き認定を受け、その後全ての要件を満たし、2024年12月にフル認定、2025年3月に認定証と盾の授与を受けました。日本国内で4番目、東日本の施設では初の取得となります。

■ 対象の治療

この認定は、「定位放射線治療」、特に脳腫瘍に対する「脳定位放射線治療」や、肺・肝・腎・脊椎腫瘍などに対する「体幹部定位放射線治療」といった、最も高い精度を要する治療を対象としています。これらの治療は、高線量の放射線を腫瘍にピンポイントで集中的に照射することで、正常組織への放射線量を少なくし、腫瘍の治癒・制御の向上を目指す治療法です。この方法により、1回で大線量の照射が可能となり、短期間で治療が終了し、がんの制御率が著明に向上することが期待されます。

しかし、このような高精度放射線治療は、不適切な照射では急性期合併症や晩期後遺症の発生率が高くなるリスクがあるため、極めて高い精度と安全管理が求められます。例えば、頭部への照射中心精度は±1ミリ以内、頭部以外の体幹部では±5ミリ以内が保険適用の条件となるなど、厳格な基準が設けられています。

■ 認定証の発行

ノバリス認定プログラムは、このような高精度放射線治療の実施にあたり、細かな手順策定や適切な治療プロトコルの採用、高精度治療に対応した装置・機器の配備と管理、専門スタッフの配置が適切に行われているかを評価します。病院機能評価等と同様に、専門的な評価を通じて改善点を特定し、施設の品質向上につなげることが可能です。そして、品質と安全性について高い水準を満たしている施設にのみ、認定証が発行されます。

脳定位放射線治療の計画画像



高精度放射線治療に対応した直線加速器



ノバリス認定盾

認定取得審査

ノバルリス認定を取得するためには、非常に厳格な基準を満たす必要があります。この基準は放射線治療の手順、品質管理、実施体制が各種ガイドラインに沿って適切に行われているかを書面審査や訪問調査を通じて確認されます。

■ 厳格な審査基準と認定に必要な要件

1. 組織体制と専門スタッフの配置

十分に訓練を積んだ専任の放射線腫瘍医、医学物理士、専門スタッフが配置されていること

2. 高い技術水準での治療実施

適切な臨床プロトコルに沿って、通常の放射線治療を上回る技術水準で治療が実施されていること

3. 放射線治療計画の品質保証

患者さんごとの放射線治療計画において、品質保証プロセスが整備され、実施されていること

4. 装置・機器の配備と保守管理

治療装置や品質管理機器等が適切に配備され、その保守・管理が実施されていること

5. 品質管理プログラムと継続的改善

施設の品質管理プログラムに基づき、品質や安全性が担保され、継続的な検討・改善が実施されていること（治療手順や症例の定期的な確認も含まれる）

6. 文書化

これらの必要要件について全てが文書化されていること

■ 審査を行う「ノバルリスサークルエキスパートグループ」

審査は、定位放射線治療に精通した国際的な専門家集団である「ノバルリスサークルエキスパートグループ」が担当します。同グループは、脳外科医3名（米国3名）、放射線腫瘍医3名（米国1名、ドイツ1名、ベルギー1名）、医学物理士3名（米国2名、カナダ1名）の計9名で構成されており、ブレインラボ社からは独立して活動しています。これにより審査の客観性と信頼性が担保されています。



訪問調査測定の様子

■ 審査を受けたスタッフの皆さん



ノバリス認定取得までの道のり



中央放射線部
藤原 純一 副技師長

当院がノバリス認定取得を目指したのは、2019年9月の病院移転に伴うものでした。その時、認定受審を決定し、準備を開始いたしました。

しかし、2020年には新型コロナウイルス感染症が世界的に流行し、受審は一時延期を余儀なくされました。それでも、当院は2021年も受審に向けて事前審査書類等の準備と組織体制作りを継続し、着実に歩みを進めました。そして、2023年6月に新型コロナウイルス感染症が落ち着きを見せ始めたところで、事前審査書類を提出。同年8月には、北海道大学の石川教授を監査官としてお招きし、訪問調査を受けました。この調査結果を踏まえ、2023年9月に本申請書類をノバリスエキスパートグループへ提出いたしました。

厳しい審査の結果、2023年12月に当院は条件付きでの認定を受けることができました。この条件付き認定は、肺定位放射線治療において、放射線が適切に投与されていることを確認するための第三者評価が未受審であったことに起因します。現在も、国内に適切な評価機関がなく、海外の第三者評価機関への依頼には高額な費用がかかるという課題がありました。

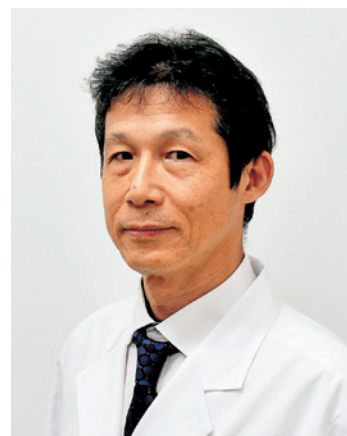
この課題に対し、2024年を通して条件付き要件を満たすための検討を重ね、同年12月には肺定位放射線治療に関する第三者評価の訪問調査を受審し、要件をクリアすることができました。そして、2025年1月には全ての要件を満たしたとしてフル認定の連絡を受け、晴れて2025年3月に認定証と盾の授与に至りました。認定期間は4年間です。

ノバリス認定を取得した意義と今後の展望

ノバリス認定の取得は、当院の放射線治療部門が、高精度放射線治療において世界水準の品質と安全性を満たしている証です。2023年6月末現在で、世界で延べ200を超える施設が申請し、そのうち認定を受けたのはわずか56施設、再認定を含めても75施設に留まっています。国内では広島がん高精度放射線治療センター、倉敷中央病院、広島市民病院に続き当院が4番目の認定施設となりました。東日本の施設では初めて、さらに大学病院では初の取得です。

この認定は、当院の放射線治療が、常に「患者さんにとって最も安全で、かつ効果的な治療」を提供できるよう、組織体制、専門スタッフの能力、治療プロトコル、装置の品質管理、そして継続的な改善活動のすべてにおいて、国際的な基準をクリアしていることを示しています。これにより、患者さんにより質の高い、安心して受けられる高精度放射線治療を提供できることを約束します。

ノバリス認定の取得はゴールではなく、高精度放射線治療の品質と安全性を維持・向上させるための新たなスタートです。当院は、この認定を励みに、今後も継続的な品質管理プログラムの実施と改善に努め、最先端の放射線治療を患者さんに提供し続けることをお約束いたします。放射線治療に携わるスタッフが、この国際的な評価にふさわしい医療を提供できるよう、一丸となって精進してまいりますので、皆様のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。



放射線腫瘍学科
有賀 久哲 教授

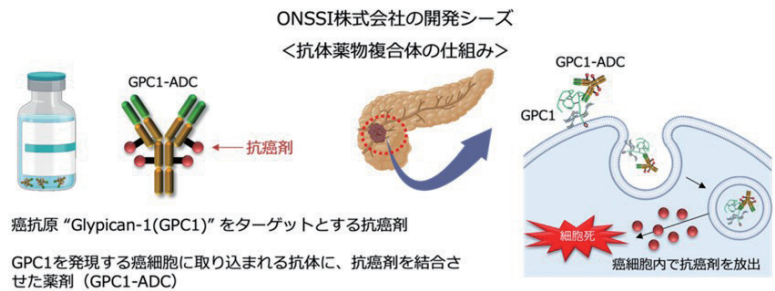
ONSSI 株式会社 ～新規の抗癌剤の事業開発を目指す～

代表取締役 鈴木 悠地 (内科学講座 リウマチ・膠原病・アレルギー内科分野 特任准教授)

ONSSI 株式会社は、本学が知的財産権を有する新規の抗癌剤の事業開発を目指す、本学認定の創薬ベンチャー企業です。医歯薬総合研究所分子病態解析部門の仲哲治教授（副学長）、世良田聡准教授らは、食道癌の臨床検体を用いた解析から Glypican-1 という蛋白質が癌抗原であることを同定し、10 年以上にわたる研究の結果、この癌抗原を発現する癌細胞を特異的に殺傷する抗体薬物複合体（Antibody-drug-conjugate: ADC、以下 GPC1-ADC）の開発に成功しました。Glypican-1 は食道癌だけでなく、膵臓癌、胃癌、子宮頸癌などにも発現しており、GPC1-ADC は複数の癌種に対して治療効果が期待されています。

創薬ベンチャー企業の役割

当社のような創薬ベンチャーは、アカデミアで生まれた研究シーズを製薬企業に橋渡しするための事業開発を担います。研究者が長年育んできた医薬品候補について、製薬企業が実用化を検討する段階に至るまでは、サルを用いた安全性試験の実施や、第 I 相試験（臨床薬理試験、いわゆる治験）の結果が一般的に求められます。これらの開発は、医薬品規制当局のルールに基づいて実施され、総額で 50 億円から 100 億円規模の資金を必要とします。創薬ベンチャーは、ベンチャーキャピタルなどの投資家から資金を調達し、医薬品開発製造受託機関（CDMO）、医薬品開発業務受託機関（CRO）との契約交渉・締結、治験実施、企業連携などを通じて、アカデミアと企業との橋渡しを担います。国も「創薬力向上」を国家戦略の一つとして掲げており、「創薬ベンチャーエコシステム強化事業」などを通じて、非臨床試験や早期臨床試験を実施する創薬ベンチャーへの支援を行っています。



今後について

当社は、2026 年にサルの安全性試験を完了し、2028 年の第 I 相試験実施を目指して、本学の研究開発・共創センターと連携しながら事業開発を進めていきます。

ONSSI株式会社 役員



鈴木 悠地
代表取締役

ONSSI社のシーズの主たる対象疾患である消化器領域に関するサブスペシャリティ、起業・経営経験を生かし、ONSSI社の意思決定を行う。



仲 哲治
取締役

ONSSI社創業者。医歯薬総合研究所 分子病態解析部門 教授。ONSSI社では、研究開発、非臨床試験の総括を行う。



堀内 正
取締役

慶應義塾大学病院 臨床研究推進センター 訪問教授。製薬企業（第一三共）での研究開発の経験を活かし、ONSSI社では主に事業開発を担当。



世良田 聡
取締役

医歯薬総合研究所 分子病態解析部門 准教授。基礎研究開発、非臨床試験業務を担う。



大杉 義征
相談役

ONSSI社創業者。中外製薬在任時に日本初の抗体医薬品IL-6阻害剤「アクトムラ」の開発に成功。ONSSI社では主に知財管理を担当。

防災週間に伴う防災訓練が行われました

9月3日（水）、矢巾キャンパスにおいて、防災週間に伴う防災訓練が行われました。毎年9月1日は防災の日、8月30日～9月5日は防災週間と中央防災会議（内閣総理大臣を長とし内閣府に事務局を置く会議）によって定められ、全国的に防災知識普及のための講演会や展示会、防災訓練が行われます。

当日は、矢巾キャンパス防火・防災管理者と主に事務局職員により構成される矢巾キャンパス自衛消防隊や看護部が参加し、火災想定訓練、地震体験訓練、消防設備取扱訓練等が行われました。訓練参加者は楽しい雰囲気の中、熱心に取り組み、災害対応への知識を深めています。



地震体験訓練

小児がん啓発キャンペーン「ゴールドセプテンバー」イベントが開催されました

9月5日（金）、小児病棟及びがんセンターにおいて、毎年9月に行われる世界的な小児がん啓発キャンペーン「ゴールドセプテンバー」のイベントが開催されました。ゴールドセプテンバーは小児がん治療の重要性を広め、子どもたちに必要な医療や研究に「光を照らす」ことを目的に行われ、当院では初めての参画となります。

当日は、岩手ビッグブルズの選手らも参加し、ミニバスケットゴール体験交流、ランタンライトアップ点灯式、小児がんの啓発カラーであるゴールドリボンをツリーに装飾しました。

小児科学講座の三浦助教は「現在、がんサバイバーが増えている。病気を知ってもらい、偏見のない社会にしていきたい」と願いを込めました。



ビッグブルズの選手とツリーにゴールドのリボンを装飾する子どもたち

内閣府主催の大規模地震時医療活動訓練が矢巾キャンパスで行われました

9月6日（土）、北海道、青森県、岩手県、宮城県を被災地とする日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震を想定した訓練（内閣府主催）が各県庁・道庁や各地の病院で行われ、本学災害時地域医療支援教育センターも会場に指定されました。

この訓練には、県内外の災害派遣医療チーム（DMAT）や自衛隊等、約900名が参加し「DMATの参集・活動訓練」「地域医療活動訓練」「広域医療搬送訓練」等が行われ、本学では被災した病院支援机上訓練が実施されました。



被災した病院の避難・籠城支援方法を検討するDMAT 隊員

矢巾町セカンドアカデミー in 岩手医大 2025 が行われました

9月9日（火）・16日（火）・26日（金）の3日間、矢巾キャンパスにおいて、矢巾町と本学教養教育センター共催イベント「矢巾町セカンドアカデミー in 岩手医大 2025～医大矢巾キャンパスで学ぼう～」が行われました。

このイベントは本学の教員を講師として大学の研究・教育成果を矢巾町民の皆さんに還元し、地域文化の発展と活性化をに貢献することを目的に毎年実施しています。20名の地域住民が参加し、参加者は実際に身体を動かしたり、普段訪れることのない矢巾キャンパス内で講義を受けたりと大変好評でした。



人間科学科体育学分野 佐々木助教による「BK30（ブレイク・サーティー）で血流&体力アップ！」

岩手医工・産学連携フォーラムが開催されました

9月10日（水）、本学・岩手大学・TOLIC（医工連携の民間団体）は、盛岡市において、第1回岩手医工・産学連携フォーラムを開催しました。

このフォーラムは、岩手県の医療課題解決と医療関連機器産業の発展およびこの分野における人材育成と定着を目的としています。岩手医科大学、岩手大学をはじめとする岩手県内の研究機関とライフサイエンス産業集積拠点をめざす産学官金の事業化連携体 TOLIC とが連携することで、医薬品・医療機器の「研究開発～製品開発～社会実装」までの地域エコシステムの実現を目指しています。

3者の代表による講演、また、3者所属の個別の研究成果が発表され、初の連携フォーラムは盛会のうちに終了しました。

「岩手医科大学における研究基盤体制の新たな構築：医療機器・創薬エコシステム構想」

岩手医科大学
小笠原 邦昭 学長



「リハビリテーション医学医療が求める医療デバイスや医工学～摂食嚥下に関する例～」

リハビリテーション医学講座
西村 行秀 教授



「岩手医科大学の生命科学研究の支援について」

医歯薬総合研究所
吉岡 芳親 客員教授



「岩手医科大学の生命科学研究の支援について」

生命科学研究技術支援センター
花坂 智人 技師長



産学連携のエコシステム形成について説明する小笠原学長

岩手医科大学秋季卒業式が挙行されました

9月16日（火）、大堀記念講堂において、令和7年度岩手医科大学秋季卒業式が挙行され、医学研究科博士課程1名・修士課程1名、薬学部23名が卒業を迎えました。

式では、卒業生一人ひとりに小笠原学長から卒業証書・学位記が授与されました。小笠原学長から「皆さんのゴールは病める患者さんを助けることです。そのゴールを目指して勉学に励み、立派な医療人になってほしい」と式辞があり、祖父江理事長から「身体を病み心を痛めている患者さんに寄り添い、心優しい医療人になることを願う」と祝辞が述べられました。



卒業証書・学位記授与



祖父江理事長祝辞



大堀記念講堂で行われた秋季卒業式

IBC まつりでがんセンター PR 活動が行われました

9月20日(土)～21日(日)、滝沢市の岩手産業文化センターで開催された「IBC まつり」において、がんセンターのPR活動が行われました。がんセンターのリーフレット配布等のPR活動に加え、がんに関する認知度アンケートを行い、1,000名弱の方々にご協力頂きました。

がんセンター事務局の担当者は「本学附属病院は岩手県唯一の都道府県がん診療連携拠点病院に指定されているが、今回の調査で、がん診療連携拠点病院を知っていると答えた方は、全体の約2割と認知があまり進んでいない結果となった。がんセンターでは、引き続き、県内に広くPR活動を行っていききたい」と意欲を示しました。



がんセンターのブース

事務局職員が矢巾町内のごみ拾いを行いました

9月24日(水)、事務局若手～中堅事務職員が3・4人一組のグループに分かれて矢巾町内の神社を巡り、道中のごみを拾いました。

これは、事務局若手・中堅事務職員研修会の一環として行われ、岩手医大の所在地である矢巾町への理解を深め、職場を離れて仲間と同じ時間を過ごすことで勤労意欲のリフレッシュを図ることを目的に行われました。

参加した経理課の菅原さんは「同世代の仲間と矢巾町を体感し、実用的な能力を座学ではなく自然な形で学び、とても有意義な研修でした」と充実した時間を過ごしたようでした。



グループに分かれてゴミを拾う職員

岩手恵眼会総会が行われました

9月27日(土)、歯学部4階講堂において、岩手医大眼球銀行登録者の会である第68回岩手恵眼会総会が行われ、岩手恵眼会の明戸均会長をはじめ、岩手医大眼球銀行総裁の小笠原学長や技術主幹の黒坂教授など、多数の会員や教職員が参加しました。

総会では、はじめに献眼物故者に黙祷を捧げ、岩手医大眼球銀行の現状報告、岩手恵眼会の事業報告・決算報告が行われた後、内科学講座糖尿病・代謝・内分泌内科分野の石垣教授による「糖尿病と合併症」と題された講演が行われました。



歯学部4階講堂で行われた総会

大学院医学研究科秋季入学式が挙行されました

10月1日(水)、本部棟4階大会議室において、令和7年度大学院秋季入学式が挙行され、医学研究科博士課程に4名の入学生を迎えました。

式では、小笠原学長から「研究の仕方や論文のまとめ方などを大学院時代に学び、これからの医師としての人生に役立ててほしい」と激励の言葉が送られました。



小笠原学長による入学許可宣言

医療安全シンポジウム2025が行われました

10月4日（土）、大堀記念講堂で医療安全シンポジウムが行われ、本学教職員・学生約899人（ウェブ参加者も含む）が参加しました。このシンポジウムは、2023年10月に本学附属病院で発生した医療事故を受けて、医療従事者としての自覚を再認識するとともに二度と同様の事故を起こさず、また、本医療事故を風化させないよう、大学全体として医療安全に係る意識の醸成を図ることを目的に行われています。

当日は、「患者・家族と医療をつなぐNPO 法人架け橋」の理事を務める高山 詩穂氏の基調講演と森野附属病院院長・肥田医療安全管理部長・赤坂小児科診療科部長・杉下小児病棟看護師長・高山氏によるパネルディスカッションが行われました。

本シンポジウムは昨年から開催しており、参加した医療従事者と学生は、当院の医療安全の課題を共有し再発防止を誓いました。



高山氏の基調講演

「あらためて医療安全を考える～医療事故の経験から伝えたいこと～」



パネルディスカッション「本学附属病院の取り組みについて」



熱心に質問する参加学生

動物慰霊祭が行われました

10月16日（木）、大堀記念講堂で、第58回動物慰霊祭が執り行われ、小笠原学長をはじめとする教職員のほか、医・歯・薬学部の学生が参列しました。

昨年度の教育及び研究に供された動物に対する黙祷の後、小笠原学長から慰霊のことばが捧げられました。続いて学生を代表し歯学部2年生近藤愛佳さんから慰霊のことばがありました。

式終了後、参列者全員が慰霊柱を参拝し、本学の教育・研究に貢献した実験動物の御霊に感謝するとともに霊が安らかならんことを祈りました。



学生代表 慰霊のことば

岩手県脳卒中予防県民大会で脳卒中・心臓病等総合支援センターPR活動が行われました

10月31日（金）、盛岡市で開催された「岩手県脳卒中予防県民大会」において、脳卒中・心臓病等総合支援センター（以下、脳・心センター）のPR活動が行われました。

当日は、脳・心センターのスタッフがリーフレットやポケットティッシュ等のグッズ配布、脳・心センターのバナー展示を行うなど、イベント来場者300名に脳・心センターの活動内容などについてPRや啓発活動を行いました。

脳・心センター事務局の担当者は「脳卒中死亡率全国ワースト1からの脱却を目指す岩手県において、本学附属病院の脳・心センターは県民に対する知識の情報提供を担う立場にある。今後も県内に広く啓発活動を進めていきたい」と抱負を述べました。



脳・心センターのブース

表彰の栄誉

救急・災害医学講座の藤原 弘之 助教に 外務大臣及び国際協力機構（JICA）から感謝状が贈呈されました

現地時間2025年3月28日12時50分、ミャンマー連邦共和国においてマグニチュード7.7の地震が発生し、死者数3,798人、負傷者5,106人以上、行方不明者106人、被災家屋約56,000棟と甚大な被害となりました（4月29日時点国営放送ほか）。日本政府は、国際緊急援助隊医療チームを派遣することを決定し、私もメンバーとして派遣されました。隊全体としては、1次隊2次隊あわせて69名、4月2日～4月26日の25日間の活動でした。活動場所は、震源地に近いマンダレー市で現地時間4月4日13時から診療を開始し、多くの被災者の方々に寄り添うことができました。今回は外来診療を中心としたいわゆるWHO国際基準のType 1診療所機能を展開しました。私は、主に隊全体の活動をコントロールする本部活動に従事しました。現地では、地元の医療従事者と連携して効果的な支援活動を行うことができました。その成果が認められ、外務大臣及びJICA理事長より感謝状を受領しました。

（文責：救急・災害医学講座 助教 藤原 弘之）



眞瀬教授、藤原助教



岩屋 毅 外務大臣からの感謝状授与（提供：外務省）

1年次臨床研修医の渡邊 莉子 先生が 東北救急医学会総会・学術集会において優秀演題賞を受賞しました



渡邊先生、菅特任講師

この度、令和7年8月9日に山形で開催された第39回東北救急医学会総会・学術集会の学生・研修医セッションにおいて「対称性両下肢横紋筋壊死をきたした急性一酸化炭素中毒の一例」という演題で、優秀演題賞を受賞いたしました。

CO中毒の重症度は、CO-Hb濃度とは相関せず、中毒急性期に脳障害の程度や生命予後を正確に評価する確立された指標はないとされています。今回私たちが着目した内転筋壊死の合併は、神経学的予後との相関や長時間の高濃度酸素療法や高気圧酸素療法の必要性を示す可能性が考えられ、現在後方視的に関係性を検討しております。

この度は貴重な発表の機会をいただき、また学生時代に続き2年連続優秀演題賞を受賞できたことを心より嬉しく思います。最後に、高橋学教授、菅重典特任講師をはじめ、ご指導いただきました救急科の諸先生方、ご協力いただいた皆様方に、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

（文責：1年次臨床研修医 渡邊 莉子）

新任教授の紹介

令和7年10月1日就任

生物薬学講座機能生化学分野

関谷 瑞樹 (せきや みずき)

昭和55年5月1日
京都府京都市出身



趣味

料理、スキー

教職員への自己PR

中西真弓教授の後任として令和7年10月付で薬学部生物薬学講座機能生化学分野教授を拝命いたしました。口腔内病原細菌や哺乳類細胞のプロトン輸送 ATPase の作動機構と機能について研究を行っており、創薬につながる研究成果を上げたいと考えております。また、低学年を中心に質の高い教育を実践し、臨床で力を発揮できる医療人の育成にも力を尽くして参ります。今後ともご指導、ご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

主な経歴

平成15年3月 東北大学薬学部総合薬学科 卒業
平成20年3月 東北大学大学院薬学研究科創薬化学専攻博士課程 修了
平成20年4月 岩手医科大学薬学部機能生化学講座 助手
平成21年4月 岩手医科大学薬学部機能生化学講座 助教
令和4年7月 岩手医科大学薬学部生物薬学講座機能生化学分野 准教授
令和7年10月 現職

研究テーマ

膜酵素の作動機構および生理学的役割の研究

主な著者論文

- ・インスリン分泌小胞の輸送における V 型プロトン輸送 ATPase a サブユニットの役割 (Sci Rep. 2025; 15: 18982)
- ・リソソームに局在する V 型プロトン輸送 ATPase の a3 サブユニットは、破骨細胞において Rab7 の GEF である Mon1-Ccz1 の分泌リソソームへの局在に関与している (Sci Rep. 2022; 12: 8455)
- ・F 型プロトン輸送 ATPase は、虫歯原因菌 S. mutans において耐酸性に関与する (J Appl Microbiol. 2023; 134: lxad073)

お知らせ 医歯薬総合研究所の改編について

令和7年10月15日に以下の通り医歯薬総合研究所の改編を行いました。

変更後

創薬・医療機器開発部門

基盤的研究部門

創薬支援リソース部門

地域・産官学連携推進部門

生命科学研究技術支援センター

動物研究センター

超高磁場先端 MRI 研究センター

アイソトープ研究室

変更前

分子病態解析部門

神経科学研究部門

医療開発研究部門

超高磁場 MRI 診断・病態研究部門

臨床研究・疫学研究部門

腫瘍生物学研究部門

生体情報解析部門

機能形態研究部門

血管生物学研究部門

細胞生物学（再生医学）研究部門

高エネルギー医学研究部門

実験動物医学研究部門

医用画像情報センター

生命科学研究技術支援センター

動物研究センター

超高磁場先端 MRI 研究センター

アイソトープ研究室

ゲノム・オミックス解析支援センター

1. 教員の人事について

生物薬学講座機能生化学分野 教授

關谷 瑞樹（前 同分野 准教授）

口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野 准教授

大橋 祐生（前 同分野 特任准教授）

（発令年月日 2025年10月1日）

共通基盤看護学講座 教授

野里 同（現 看護学部地域包括ケア講座 准教授）

（発令年月日 2026年4月1日）

整形外科科学講座 教授

角谷 賢一朗（現 神戸大学大学院医学系研究科

外科系講座整形外科科学分野

脊椎外科学部門 特命准教授）

（発令年月日 割愛の状況による）

2. 附属病院規程の一部改正について

血管腫は年齢や発症部位が多様であり、複数の診療科に跨ることが多いことから、血管腫・脈管奇形治療における診療科間及び多職種連携体制を明確にし、当

該患者の診療窓口として、特殊診療部門に血管腫・脈管奇形治療センターを設置することとし、附属病院規程の一部を改正することを承認した。

（施行年月日 2025年10月1日）

3. 病院再編に係る事業について

内丸からのMRI及び臨床検査装置、その他医療機器・什器備品の移設費用並びに医療機器・什器備品の購入費用は当該予算の範囲内で順次手続きを進めたいこと、また、精密医療機器の移設は既存業者に、その他の引越作業は附属病院移転時の経験を有する日本通運株式会社に依頼することを承認した。

4. 岩手県ドクターヘリ寄付金の募集について

ドクターヘリ事業は岩手県から運航事業費等補助金の交付を受けてはいるものの、毎年一定の事業者（大学）負担が発生していることに加え、設備整備費補助金も減少傾向にあり、十分な機器整備が困難になりつつあることから、ドクターヘリ救急医療体制の維持・充実に向けた寄付金を募集することを承認した。

1. 教員の人事について

耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座 教授

中西 啓（現 浜松医科大学医学部附属病院

耳鼻咽喉科学講座 講師）

（発令年月日 割愛の状況による）

2. 組織規程の一部改正について

医歯薬総合研究所における産学及び地域連携並びに研究開発の推進強化を主軸とした研究体制の構築を目指し、現行の12部門6センター（室）を4部門4センター（室）に改編すること、また、教授及び准教授選考に係る手順を明確にするとともに、研究施設等に技師長及び主任技術員を置くことができるとし、組織規程の一部を改正することを承認した。

（施行年月日 2025年10月15日）

3. 教育職員の定員に関する規程の一部改正について

医歯薬総合研究所における研究の充実・強化を図ることを目的として、統合基礎講座の医学部・歯学部基礎助教枠を減員し、当該研究所に助教枠を増設することとし、教育職員の定員に関する規程の一部を改正することを承認した。

（施行年月日 2025年10月15日）

4. 役職者の選任について

医歯薬総合研究所副所長 小原 航（新任）

医歯薬総合研究所副所長 石崎 明（新任）

医歯薬総合研究所副所長 野口 拓也（新任）

（任期 2025年10月15日から3年間）

1. 教員の人事について

統合基礎講座医学教育学講座教育支援システム開発分野 教授

前沢 千早（前 医歯薬総合研究所腫瘍生物学研究部門 教授）

医学部内科学講座リウマチ・膠原病・

アレルギー内科分野 准教授

村田 興則（前 同分野 講師）

医学部内科学講座リウマチ・膠原病・

アレルギー内科分野 特任准教授

鈴木 悠地（前 同分野 特任講師）

（発令年月日 2025年11月1日）

2. 救急車以外の時間外外来停止について

夜間診療所の新体制に関する関係機関との調整状況及び当院における診療体制等を勘案し、2026年1月13日（火）午後5時を以って時間外外来を停止すること

とし、特殊ユニットを用いた診療（眼科、耳鼻咽喉科、歯科、産科）は病棟処置室等での運用を開始するとともに、通院治療中の患者は対応を継続することを承認した。

3. 附属内丸メディカルセンターの診療体制について

2026年4月1日からの附属病院再編に伴い、内丸地区での診療継続を要望する患者の対応、学生及び臨床研修医の実習場所の確保等を考慮し、総合診療科、婦人科（リプロダクションセンター）及び歯科による診療体制とし、名称は現行のまま、診療場所は入院棟及び歯学部棟とすることを承認した。

4. 役職者の選任について

附属内丸メディカルセンター長 千葉 俊美（新任）

（任期 2026年4月1日から2年間（前任者の残任期間））

わたSHIGA輝く国スポ（第79回国民スポーツ大会）

中央放射線部 診療放射線技師 悦淵 護

このたび、「わたSHIGA輝く国スポ（第79回国民スポーツ大会）」において、空手道競技の組手（個人・団体）に出場いたしました。大会は10月5日から7日にかけて滋賀県で開催され、全国の強豪選手が集う中、私は個人戦と団体戦の両方に挑みました。個人戦では惜しくも初戦敗退となりましたが、団体戦では岩手国体以来9年ぶりとなる一回戦突破を果たすことができました。

空手道の「組手」は、互いに攻防を繰り広げながら有効技で得点を競う競技で、技の種類によって、突き技：1点、中段蹴り：2点、上段蹴り：3点のように技により、ポイントが与えられます。団体戦は、各チーム5名が「先鋒・次鋒・中堅・副将・大将」として順に戦い、5試合中3勝すればチームの勝利となります。

今回、初戦の対戦相手は島根県チームで実力も拮抗しており、先鋒（少年女子）と次鋒（成年女子）が粘り強く勝利し、チームに勢いを与えてくれました。中堅として出場した私は、流れをつなぐために集中して試合に臨みました。序盤、相手の上段突きで1ポイントを奪われましたが、試合中盤で狙っていた上段回し蹴りが鮮やかに決まり、3ポイントを獲得。嬉しさのあまりガッツポーズをしたところ、競技の礼節を守る観点から審判に注意される一幕もありました。その後、相手に1ポイントを返されましたが、終盤には自らも上段突きを決めて2ポイントを追加し、結果は、5対2で勝利し、チームとしても3勝が確定しました。9年ぶりの団体戦一回戦突破を全員で喜び合いました。

続く2回戦では奈良県との対戦となりました。互いに一步も譲らない接戦となり、どの試合も僅差の勝負が続きました。最後まで粘り強く戦いましたが、惜しくも敗退という結果になりました。それでも、強豪県を相手に堂々と戦い抜いたチームの姿勢には大きな成長を感じました。勝敗以上に、仲間との信頼や支え合いの大切さを改めて実感した試合でした。

試合後は琵琶湖の雄大な景色に心が洗われました。まるで海のように広がる湖面は、緊張から解き放たれた心を穏やかにしてくれました。夜には大津市の居酒屋「御幸家」で名物もつ鍋「藤娘」をいただきました。白だしをウーロン茶で割る独自の調理法で、脂っこさを抑えつつ旨味とコクがしっかり残る一品です。店主によれば、この食べ方は御幸家のオリジナルとのこと。滋賀ならではの味わいを満喫できました。

大会後には京都を訪れ、八坂神社で偶然行われていた「観月祭」にも立ち寄りしました。満月に照らされた舞殿で雅楽と舞が奉納され、太鼓や笛の音、そして鈴虫の声が夜空に溶け合う幻想的な時間を過ごしました。今回の国スポ出場は、勝敗を超えて、仲間との絆や文化との出会いから多くを学ぶ貴重な経験となりました。



中段突きを決める悦淵選手

琵琶湖の前で記念撮影をする団体戦メンバー
(左から5番目が著者)

大津市「御幸家」の名物もつ鍋

令和7年度 夏季の省エネ活動の実施結果について

職員の皆様方におかれましては、日頃より省エネ活動にご協力をいただきまして誠にありがとうございます。
令和7年6月から9月まで実施しました「夏季の省エネ活動」について、ご報告いたします。

■ 省エネ活動計画概要

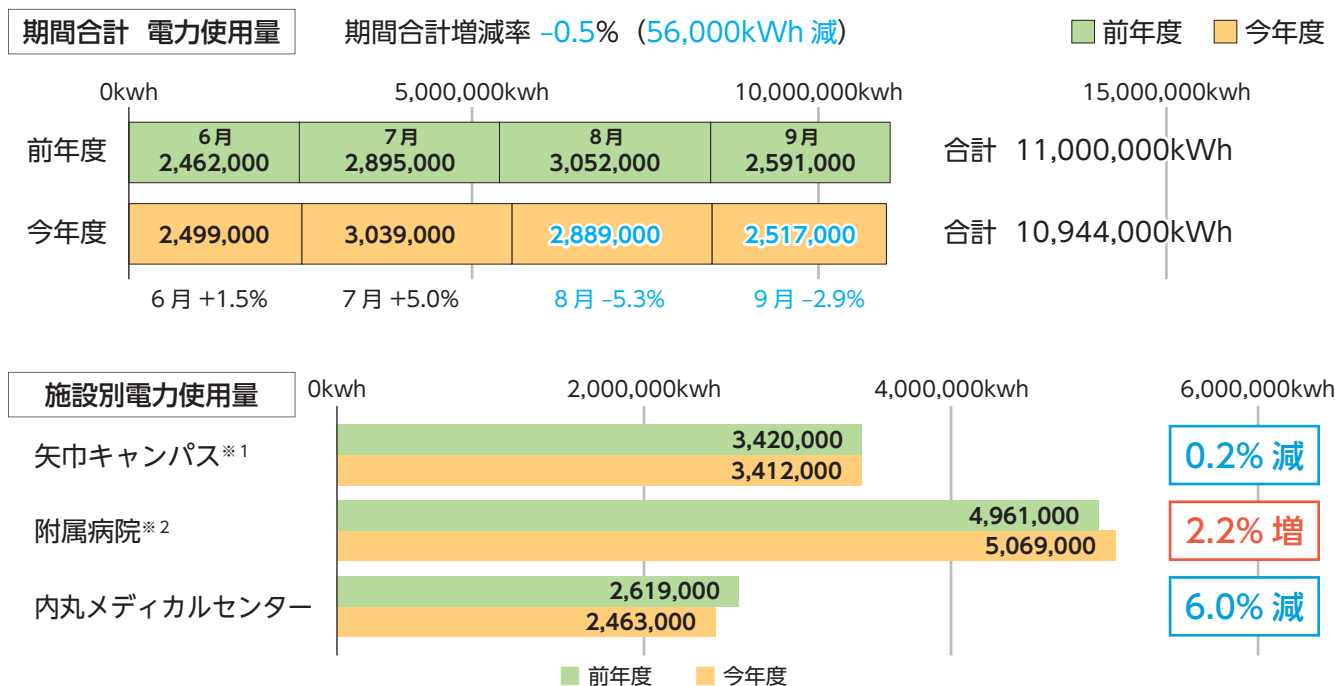
【実践期間】 令和7年6月1日から令和7年9月30日まで

【削減目標値】 電気使用量の多い主要3施設（矢巾キャンパス、附属病院、内丸メディカルセンター）の実施期間の合計電気使用量を前年度比で1%削減

【取り組み内容】 ①冷房設定温度及び空調運転時間の調整 ②不要な照明の消灯
③待機電力の低減 ④啓発ポスターの掲示
⑤施設利用状況の巡視
⑥クールビズの実施 令和7年5月1日から令和7年10月31日まで

■ 省エネ活動実施結果

《結果》 前年度比 0.5%削減（56,000kWh 減）



※1 対象施設：矢巾キャンパス校舎、マルチメディア教育研究棟、超高磁場先端MRI研究センター、動物研究センター

※2 対象施設：附属病院、エネルギーセンター

今夏は削減目標に掲げた「実施期間内の合計電気使用量を前年度比で1%削減」の取り組み目標に対して、前年度比で0.5%の電気使用量の削減となりました。

実施期間中の各月の平均気温はかなり高く推移し、冷房の稼働がどうしても増えることになります。

今夏は特に6月・7月において前年同月の平均気温を超える暑さとなり、電気使用量が大きく増えてしまいました。8月・9月も暑い月ではありましたが、前年同月の平均気温より低く、冷房の使用を抑えることができたため、電気使用量を減らすことができました。

今夏も厳しい気象条件の中、省エネ活動にご協力いただき、誠にありがとうございました。

引き続き省エネ活動へのご協力をお願いいたします。

岩手医科大学募金状況報告

本学の事業募金に対し、特段のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼申し上げます。
ご支援いただいた皆様のご協力に感謝の気持ちを込め、ここにご芳名を掲載いたします。
今後とも格別なるご支援・ご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。
※ご芳名及び寄付金額は、掲載を承諾された方のみ紹介しています。

学術振興資金募金

第30回目のご芳名紹介です。(令和7年8月1日～令和7年9月30日)

■ 法人・団体等 (4件)

<80,000,000>
株式会社 こすかたサービス (岩手県紫波郡)
<1,000,000>
医療法人社団 浅井耳鼻咽喉科医院 (神奈川県横浜市)
<200,000>
医療法人社団 小林皮膚科クリニック (北海道札幌市)
(敬称略)

区 分	申込件数	寄付金額 (円)
主 陵 会	532	285,028,220
在 学 生 ご 父 母	400	96,840,000
役員・名誉教授	46	113,130,000
教 職 員	48	7,440,000
一 般	28	488,653,572
法 人・団 体	329	440,905,481
合 計	1,383	1,431,997,273

(令和2年9月1日～令和7年9月30日現在)

■ 個人 (1件)

<ご芳名のみ>
高橋 薫 (医49)
(敬称略)

歯学部支援基金を通じた寄付

第1回目のご芳名紹介です。(令和7年7月1日～令和7年9月30日)

■ 法人・団体等 (2件)

<1,500,000>
歯学部同窓会道央支部 (北海道札幌市)
<100,000>
歯学部同窓会群馬県支部 (群馬県桐生市)
(敬称略)

区 分	申込件数	寄付金額 (円)
主 陵 会	36	2,829,000
在 学 生 ご 父 母	1	20,000
法 人・団 体	2	1,600,000
合 計	39	4,449,000

(令和7年7月1日～令和7年9月30日現在)

■ 個人 (25件)

<1,000,000> 大庭 英樹 (医46)	<30,000> 平尾 慶太 (歯14)	阿部 隆 (医26・歯3)
<300,000> 石北 裕 (歯3)	<20,000> 石田 哲彦 (歯3)	木村 貞昭 (歯12)
<100,000> 三上 弘之 (歯3)	<10,000> 熊谷 哲也 (歯24)	近藤 康弘 (歯12)
安成 宗一 (歯2)	安成 祥子 (歯2)	吉成 ひろ子 (医37)
<50,000> 佐藤 忠朋 (歯7)	横内 大 (歯25)	新井 桂 (歯14)
藤井 謙 (医27)	多田 源 (歯35)	吉成 仁 (医38)
<39,000> 佐久間 英治 (歯12)	<ご芳名のみ> 佐藤 厚 (歯12)	山崎 勝之 (歯12)
	松村 猛 (歯14)	田中 崇一 (歯31)
		吉田 彰英 (歯25)
		吉田 智哉 (歯33)
		(順不同、敬称略)

「岩手県ドクターヘリ寄付金」の募集を開始しました

当院では、岩手県におけるドクターヘリの運航体制をより強化・安定化させるため、10月から寄付金の募集を開始しました。いただいた寄付は、搭乗医療スタッフの装備品や医療資器材・消耗品・安全運航に係る費用等に活用いたします。
※1口1万円から受付けております。

詳細については大学HPをご確認ください。

(<https://www.iwate-med.ac.jp/sien/doctor-heli/>)

【連絡先】

病院事務部 病院企画課 ドクターヘリ担当

019-613-7111 (内線 6033)

hkikaku@j.iwate-med.ac.jp

大学HPは
こちら



シリーズ 職場めぐり No.154

放射線治療科外来

放射線治療科は、放射線治療科医師・診療放射線技師・医学物理士・看護師・受付事務員で構成されており、看護師は核医学検査室も兼務しています。放射線治療は外部照射の他に小線源療法や内用療法など、専門的で高精度ながん治療を提供するとともに、緩和医療にも関与してがん患者の「生活の質」改善に努めており、患者数も増加傾向にあります。放射線治療は、小児から高齢者まで幅広い世代の患者さんで、疾患や治療目的も多岐にわたります。患者さんが安心・安全に治療完遂できるように、副作用や症状のケアと精神面や社会的なことについて、包括的に支援していくことを心がけて関わっております。日々の患者さんの言動や表情などを細やかに観察し、多職種でコミュニケーションを密にとりな

がら連携を図っています。専門性の高いチーム医療と質の高い看護を提供するために、多職種の専門性を理解・尊重し合い、チームで患者さんやそのご家族を支えることを目指しています。

(主任看護師 下田 弥生)



東6階B病棟

東6階B病棟は、循環器内科、心臓血管外科が主な診療科となっています。カテーテルによる血管内治療や心臓・大血管周術期の患者さんが多く入院されています。スタッフは看護師36名、看護補助者(夜勤補助者含め)4名であり、「専門性と倫理観を発揮し、患者の退院後を見据えた意思決定を支え安心・安全な看護を提供する」ことを部署理念として看護を実践しています。急性期の安全安楽なケアの提供のほかに術後や心不全患者さんへの患者教育を行い、退院後のセルフケアの重要性を伝えています。入院患者さんからは、スタッフの優しさや思いやり、プロフェッショナルな看護に対する感謝の言葉をいただく機会が多く、やりがいにつながっています。また、

働きやすい職場環境を目指し、多職種の協力を得ながら様々な業務改善に取り組んでいます。今後もスタッフ個々の能力をさらに高め合い、患者さんに信頼される質の高い看護を提供していきます。

(主任看護師 長岡 友美)





歯科用コーンビーム CT を知っていますか？

みなさんは歯科用の CT を御存じでしょうか。歯科用コーンビーム CT と呼ばれ、最近では一般歯科医院でも導入されるようになったことから、検査を受けた経験がある方もいらっしゃるのではないのでしょうか。今回は歯科用コーンビーム CT の特徴についてお話致します。

◎ 歯科用コーンビーム CT の優れる点

1. 硬組織（歯・骨等）の表示能力が高い
2. 細かな画像表示が可能
3. 被曝線量が少ない

歯科疾患のほとんどが歯や骨などの硬組織に生じることから硬組織表示に優れた歯科用コーンビーム CT は歯科に適した検査装置と言えます。歯の中には歯髄と呼ばれる神経や血管が入ってる腔が存在します。この歯髄形態は多岐にわたり治療成績や予後を左右すると言われます。歯科用コーンビーム CT では、この歯髄形態も詳細に表示することが可能で、治療時の歯髄形態の診断に有用とされております（図1）。

また、歯の位置異常や埋伏状態を3D表示する能力にも優れており、治療前のシュミレーションなどにも活用されております（図2、3）。検査時の被曝線量は全身CTと比較し少なく、また、被曝範囲も小さく設定できることも大きな特徴といえます。

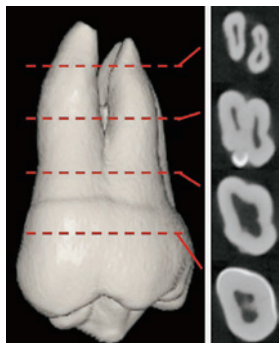


図1

◎ 歯科用コーンビーム CT の欠点

1. 軟組織（筋肉等）の表示能力が低い
2. 撮影時間が長い（20 秒程度）ことによる体動による画質低下

等がありますが、軟組織に生じる疾患に関しては、全身CTあるいはMRIでの検査が必要となります。また、体動に関しましては撮影時に頭部をしっかりと固定するなど、工夫して検査を行っております。



図2



図3

◎ 最後に

現在、歯科医療センターでの歯科用コーンビーム CT の検査件数は年間 2,700 件前後で、増加傾向にあります。但し、被曝線量は全身CTと比較して少ないとはいえ、他の歯科エックス線検査と比較すると高い検査となります。適応症例をしっかりと見極めて検査する必要があります。

岩手医科大学報編集委員

祖父江 憲治	藤村 尚子
影山 雄太	高橋 慶
松政 正俊	阿部 俊
齋野 朝幸	杉下 佳子
藤本 康之	石森 由樹
白石 博久	高橋 淳美
佐藤 泰生	伊藤 祥子
佐藤 仁	稲垣 学人
藤澤 美穂	高橋美季子
細田留美子	松田 悠史
畠山 正充	

編集後記

この秋は熊出没情報をチェックする日が続きました。内丸メディカルセンターならびに附属病院の近くでの目撃情報もあり、病院を利用される方々の安全確保が懸念されました。

そのような中デジタルリマスター版「もののけ姫」を映画館に観に行きました。熊に怯える日々だからか、以前観たときよりも自然と人間について考えさせられ、新たな感想を得るに至りました。例年であれば紅葉狩りや温泉などを楽しめる季節、今年は熊の懸念もあり行楽の秋は叶いませんでしたが、少しでも、芸術の秋を楽しむことができました。

（編集委員 藤澤 美穂）

岩手医科大学報 第562号

発行年月日／令和7年11月30日

発行／学校法人岩手医科大学

編集委員長／祖父江 憲治

編集／岩手医科大学報編集委員会

事務局／総務部 総務課

TEL. 019-651-5111 (内線5452、5453)

FAX. 019-907-2448

E-mail: kouhou@j.iwate-med.ac.jp

印刷／河北印刷株式会社

盛岡市本町通2-8-7

TEL. 019-623-4256

E-mail: office@kahoku-ipm.jp